

歴史(平安時代④・武士の登場編)

10世紀になると、武士という身分が生まれ、やがて家来をまとめて
①_____をつくるほどに成長していた。①_____の有名な反乱に
935年の②_____の乱や939年の③_____の乱がある。

①_____の中でも、天皇の子孫である④_____と⑤_____が有力だった。

11世紀に起こった東北地方の大きな戦乱をしずめた⑥_____が
東日本に勢力を広げ、12世紀前半には⑤_____が西日本に勢力をのぼした。
都では、藤原氏と関係のうすい後三条天皇が位につき、次の
⑦_____天皇は退位して⑧_____になってからも政治(⑨_____)を行った。

また、1156年の⑩_____の乱で⑪_____と⑫_____が活躍し、
1159年の⑬_____の乱で⑪_____が⑫_____を破り、勢力を広げ、
⑭_____という最高の官職についた。

